

平成28年度 学年 [1 年] 教科 [数学]

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
探究数学Ⅰ	6	文理&生命	A～E	大西・村上・小山・小埜・橋岡
目 標	学習指導要領では、数学Ⅰ(4単位)、数学A(2単位)だが、3期目のSSHの指定を受け、学校設定科目として「探究数学Ⅰ(6単位)」を設定した。 目的；①系統立てた学習 ②理科(物理,化学)との関連			
大切に育てたいもの	意欲・自主性	態度・処理	見方・考え方	知識・理解
	数学は最初にポイントがくることを意識させ、準備をした上で物事に取りかかるという姿勢を育てたい。	数学を学習する習慣をつける、また「聞けば分かる」で終わらず、必ず手を動かして計算するという態度を育てたい。	覚えておく事項か、その場で考える部分かを区別した上で説明し、また生徒にもその区別ができるようにさせたい。	抽象思考＝言語思考なので、「言葉を大切に」し、不完全な部分は、図・表・グラフを利用し、理解を深めていきたい。

探求数学Ⅰα(3時間) [6単位をα3時間、β3時間に分けて進める]		探求数学Ⅰβ(3時間)
中学入学生、選抜、生命	高校入学生	
数学Ⅰ第1章「数と式」 p41～44 絶対値を含む方程式・不等式 数学Ⅱ第5章第1節「指数・対数」 p146～151, 158～161, 167～169 *指数の拡張、対数の性質、常用対数を中心に	数学Ⅰ第1章「数と式」 p6～ *土セミや夏期補習を利用して追いつく	数学Ⅰ第2章「2次関数」 第1節第2節 p66～87
数学Ⅰ第1章第4節「集合と命題」 数学A第3章「整数の性質」 第1節	追いついた後は左記と同じ	第2節第3節 p88～115 章末問題、演習
数学A第3章「整数の性質」 第2節第3節 数学Ⅰ第3章「図形と計量」 第1節三角比	2学期中間テスト後からはクラス毎での授業に	数学A第1章「場合の数と確率」 第1節場合の数 第2節確率～34
第2節三角形への応用 p138～155 数学A第2章「図形の性質」 *「図形と計量」第3節「三角形への応用」と「図形の性質」第1節「平面図形」の相互理解を図る。 “三角形の辺の比、外心・内心・重心、円に内接する四角形”を2学期に、(*)		第2節確率p35～52 数学Ⅰ第4章「データの分析」 p160～167
数学A第2章「図形の性質」(*)以外 数学Ⅱ第4章第1節 「三角関数」p108～128 *度数法から弧度法へとつなげる *加法定理は高2 数学Ⅱ第5章第1節「指数関数, 対数関数」		数学Ⅰ第4章「データの分析」 p168～177 数学Ⅱ第2章「複素数と方程式」
評価の方法	定期テスト(参考書テストもある)、小テスト、提出物	
学習活動の特徴	講義、演習	
授業の形態	クラス単位(ABC組の探究数学Ⅰαのみ、中学入学生と高校入学生に分かれる)	
使用教科書	高等学校 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ (いずれも数研出版)	
使用副教材	4プロセス 数学Ⅰ+A、チャート式解法と演習数学Ⅰ+A (ともに数研出版)	
用意するもの	教科書、ノート、4プロセス	
備考	定期テスト時、参考書テストあり。名称；探究数学Ⅰγ	